

平成18年11月

保護者各位

かつらぎ町立幼稚園及び学校適正配置・
整備計画検討委員会

小中学校の適正配置等についてのアンケート調査について(お願い)

昭和33(1958)年のかつらぎ町合併当時5000人余りだった児童生徒数は、過疎化・少子化の影響を受け、昨年花園村と合併した(新)かつらぎ町においても1500人余りで、急激に減少しています。

しかし、幼稚園・小中学校の数は以前とあまり変わらず、以下のように小規模校が増えてきています。また、老朽化が進行している校舎や、耐震強度が不足していると考えられる校舎も多く、早急な対応が必要ですが、町財政の厳しい状況下、教育予算においても、合理化による諸経費の見直し、重点配分による教育の質の向上が求められています。

平成18年度 児童生徒・園児数等(平成18年5月1日現在)

小学校(11校)		
学校名	児童数	学級数
笠田小学校	271	12(1)
四郷小学校	14	3<複式学級3>
大谷小学校	98	7(1)
妙寺小学校	345	13(1)
三谷小学校	48	6(1)<複式学級1>
渋田小学校	110	8(2)
四邑小学校	12	3<複式学級3>
志賀小学校	8	2<複式学級2>
新城小学校	4	1<複式学級1>
天野小学校	20	3<複式学級3>
梁瀬小学校	13	4(1)<複式学級3>

中学校(3校)		
学校名	生徒数	学級数
笠田中学校	255	10(1)
妙寺中学校	281	10(1)
花園中学校	16	3

幼稚園(6園)	
園名	園児数
笠田幼稚園	35
三谷幼稚園	4
妙寺幼稚園	26
大谷幼稚園	16
渋田幼稚園	19
花園幼稚園	6

学級数()は特殊学級数で、学級数の内数

この実態の上に立ち、平成18年5月から「かつらぎ町立幼稚園及び学校適正配置・整備計画検討委員会」を設置して話し合いを進めております。

つきましては、町内の小中学校、幼稚園、保育所の保護者の皆さんのこの問題についてのお考えを把握いたしたく、実態調査を実施することとなりました。ご多用中恐れ入りますが、別紙アンケート調査へのご協力をよろしくお願いいたします。回答にあたっては添付しています資料も合わせご参照ください。

なお、アンケート用紙はお子さまを通じて11月30日(木)までに各学校(園)にお届けください。

問い合わせ先
かつらぎ町立幼稚園及び学校適正配置・
整備計画検討委員会事務局
(かつらぎ町教育委員会総務課内)
電話 22-8347

アンケート用紙

学校(園)名[_____ 小学校・中学校・幼稚園・保育所]

【問1】現在、国の学校規模の標準は、学級数で12～18学級とされていますが、以下の選択肢のうち、あなたのお考えに近いものにおつけください(複数におつけられても結構です)。

- (1) 現在の国の標準が適正だと考える
- (2) 小規模の良さを踏まえると、教育上の観点から小規模校であっても存続するのが良い
- (3) 子ども同士が教え合い、励まし合って向上するには、1学年2学級が不可能としても、1学年最低16～20人以上の規模に統合するのが良い
- (4) 答えられない

【問2】小中学校の望ましい規模について、【問1】の選択肢のように判断されるのはどのような理由からですか。次の選択肢でお気持ちの近いものにおつけください(複数選択でも結構です)。

【ア】小学校について

- (1) 全校児童の顔が覚えられ、学校全体として保護者同士、教職員と保護者等との親睦が図れる規模
- (2) 単学級でも教科の授業等でさまざまな考えを出し合い、話し合いを進められる規模
- (3) 体育の集団的競技や音楽の合唱等に支障が生じない規模
- (4) 運動会や学習発表会等で、ある程度活性化が図れる規模
- (5) クラス替えのできる規模

【イ】中学校について

- (1) 全校生徒の顔が覚えられ、学校全体として保護者同士、教職員と保護者等との親睦が図れる規模
- (2) 国語・社会・数学・理科・英語等の教科について、各学年にそれぞれの担当教員を用意できる規模
- (3) 体育の集団競技や音楽の合唱等に支障が生じない規模
- (4) クラス替えのできる規模
- (5) 部(クラブ)活動の種目数を一定数維持できる規模

【問3】幼稚園・小学校・中学校の園児・児童・生徒数の減少という現状についてお尋ねします。

以下それぞれの選択肢のうち、あなたのお考えに近いものにおつけください(いずれか一つにおつけてください)。

【ア】幼稚園について

- (1) 園児数の減少による小規模園化が全体に広がっており、幼稚園の配置全体を見直す必要が出ている
- (2) 園児数の減少による小規模園化は全体的な傾向であるが、幼稚園の配置全体を見直す必要を感じない
- (3) 答えられない

【イ】小学校について

- (1) 児童数の減少による小規模校化が全体に広がっており、小学校の配置全体を見直す必要が出ている
- (2) 児童数の減少による小規模校化は全体的な傾向であるが、小学校の配置全体を見直す必要を感じない
- (3) 答えられない

【ウ】中学校について

- (1) 生徒数の減少による小規模校化が全体に広がっており、中学校の配置全体を見直す必要が出ている
- (2) 生徒数の減少による小規模校化は全体的な傾向であるが、中学校の配置全体を見直す必要を感じない
- (3) 答えられない

【問4】幼稚園・小学校・中学校の規模が縮小してきている現状への対応策についてお尋ねします。

本町の実態を踏まえ、あなたは次のうちどの対応策を現実的とお考えになりますか（複数に をつけられても結構です）

- (1) 困難はあっても、小中学校（園）の適正規模の維持を基本として統合方策を考える
- (2) 小規模校（園）であっても、交流学习の要素などを取り入れながら、学校（園）規模の小さいことの良さを生かすような方策を検討する
- (3) 小中学校（園）がまちづくり、むらづくりに果たしてきた役割等を大切に、児童生徒数の減少が限度（複式学級とならない国の標準では1学年16人）に達するまでは学校の維持を図る

【問5】小中学校（園）の配置についての基本的な考え方についてお尋ねします。

本町の実態を踏まえ、あなたはどのような対応策を優先すべきだとお考えになりますか。ご自身のお考えにもっとも近い選択肢に をおつけください（複数選択でも結構です）

- (1) 子どもの通学負担を軽くするという点から、現行の通学距離の基準（小学校4km・中学校6km）をもとに検討すべきであり、学校規模については地域による違いが生じてもやむをえない
- (2) 子どもの通学負担は重視すべきだが、学校は一定の水準の学力を保障し、集団生活の基礎をつくる場である以上、スクールバス等の導入を図り、適正学校規模の維持を優先して考えるべきである
- (3) 幼稚園・小学校・中学校がそれぞれの地域の文化の拠点、災害の際の避難場所、むら（まち）づくりの拠点等でもある性格から考えて、それらを優先した学校（園）配置となるのはやむをえない
- (4) 答えられない

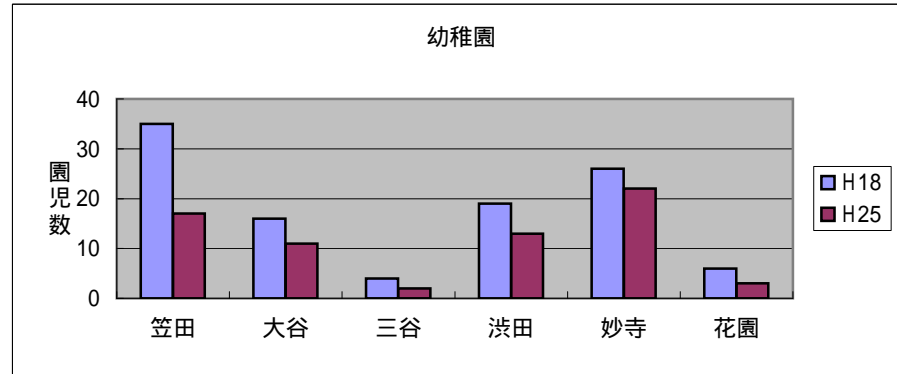
ご協力ありがとうございました。その他要望することがございましたらご自由にお書きください。

資料

1. 幼稚園6園、小学校11校、中学校3校の今後の園児・児童・生徒数の推移（見込み）

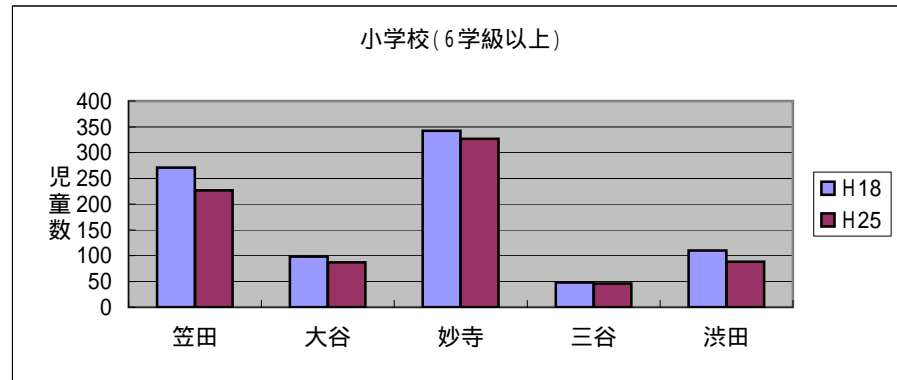
(幼稚園)

園名	園児数	
	H18	H25
笠田	35	17
大谷	16	11
三谷	4	2
渋田	19	13
妙寺	26	22
花園	6	3



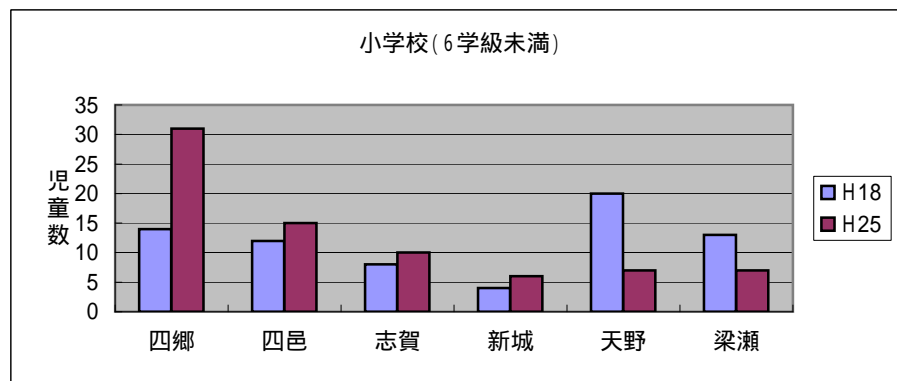
(小学校)
6学級以上

学校名	児童数	
	H18	H25
笠田	271	227
大谷	98	87
妙寺	342	327
三谷	48	46
渋田	110	88



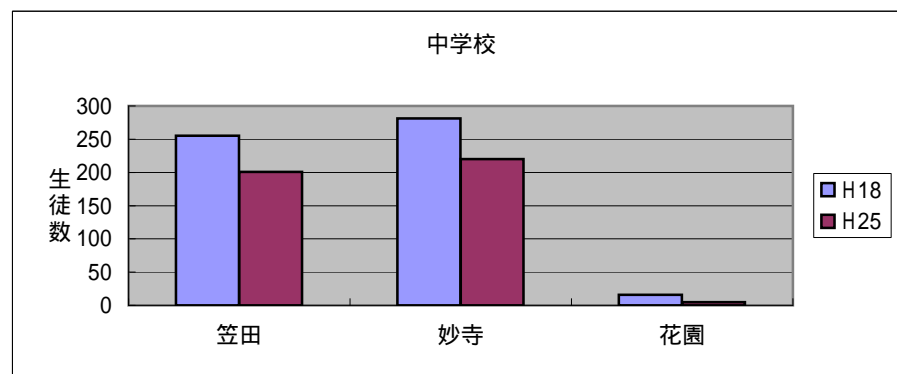
6学級未満

学校名	児童数	
	H18	H25
四郷	14	31
四邑	12	15
志賀	8	10
新城	4	6
天野	20	7
梁瀬	13	7



(中学校)

学校名	生徒数	
	H18	H25
笠田	255	201
妙寺	281	220
花園	16	5



2. 学校規模の標準

ア) 国の標準 . . . 小・中学校とも、全学年の合計が12学級～18学級

イ) 県の基準 . . . 小学校においては、全学年の合計が12学級～18学級
中学校においては、全学年の合計が9学級～18学級

3. 学級編制基準

ア) 単式学級 . . . 幼稚園で1学級の幼児数35人以下
小・中学校で同学年の児童生徒で編制する学級
1学級40人以下

イ) 複式学級 . . . 小学校
2つの学年の児童で編制する学級1学級16人以下
(第1学年の児童を含む学級にあつては1学級8人以下)
中学校
2つの学年の生徒で編制する学級1学級8人以下

4. 通学距離の基準

ア) 小学校 . . . おおむね4km以内

イ) 中学校 . . . おおむね6km以内